

高崎市文化財調査報告書第342集

昭和町遺跡2

—体育馆建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2015

高崎市教育委員会
株式会社歴史の杜
学校法人新島学園

例　言

1. 本書は体育館建設に伴う、昭和町遺跡第2次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は群馬県高崎市昭和町88番に所在する。
3. 発掘調査及び整理調査・報告書作成は、高崎市教育委員会の管理の下、学校法人新島学園と委託契約を締結した株式会社歴史の杜が実施した。
4. 発掘調査の体制は、以下の通りである。
高崎市教育委員会 田口一郎、田辺芳昭
株式会社歴史の杜 向出博之、小宮山達雄
5. 発掘・整理調査は、平成26年10月6日から平成27年2月27日の期間で実施した。
6. 本遺跡は高崎市遺跡番号612である。
7. 本書の執筆についてIを高崎市教育委員会文化財保護課、II～IVを向出、V・VIを小宮山、VIを株式会社古環境研究所がそれぞれ行った。また、編集については向出、小宮山が行った。
8. 本遺跡に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査における以下の業務を委託した会社名は、下記の通りである。
表土掘削 山下工業株式会社
基準点測量及び遺構測量 株式会社測研
自然科学分析（プラント・オパール） 株式会社古環境研究所
10. 発掘作業・整理作業に携わった方々は以下の通りである（敬称略・五十音順）。
発掘作業：新井将夫 飯塚昭雄 五十嵐正宏 石田修慶 植松郁雄 片野金次郎 静野佳春 山田栄治
整理作業：篠原信子 深井美紀
11. 発掘調査の実施から報告書の刊行に至る過程で下記の機関・諸氏のご協力を賜った。記して感謝申し上げます（敬称略・五十音順）。
株式会社石井設計 冬木工業株式会社 高林真人 村上章義 矢島博文

凡　例

1. 本書掲載の第1図は高崎市発行1/2,500「高崎市都市計画図」を、第2図は国土地理院発行1/25,000地形図「前橋」「高崎」「下室田」「富岡」をそれぞれ使用した。
2. 本書で使用した座標は世界測地系を使用し、図中の方位は座標北である。
3. 本書に掲載した遺構、遺物の縮尺は以下を基本とする。なお、すべての図には縮尺を示している。
遺構：全体図（1/200）、溝跡（1/80）、基本層序・畦畔・井戸跡（1/60）、耕作具痕（1/40）。
遺物：全て1/3で掲載した。写真のみ掲載のものも1/3である。
4. 全体図中に入っているトーンは、近現代の建物の基礎であることを示す。
5. 遺構及び遺物の色調は、『新版標準土色帖』（2001年版）を使用した。
6. 土層説明中のしまりなどの度合いについては、しまり硬い→あり→ややあり→弱い→なし、粘性は強い→あり→ややあり→弱い→なし、混入物の割合は純層→多量含む→含む→少量含む→微量含むの順になる。

目次

例言・凡例	4.	井戸	7
目次	5.	ピット	7
図版目次・表目次・写真目次	第2面		
I. 調査に至る経緯	1	1. As-B 下水田より前の水田跡	8
II. 調査の方法と経過	1	2. 溝	10
III. 遺跡の立地と環境	1	3. ピット	11
IV. 基本層序	2	遺構外出土遺物	11
V. 検出された遺構と遺物	5	VI. 昭和町遺跡2の	
第1面		プラント・オパール分析報告	12
1. As-B 下水田	5	VII. まとめ	16
2. 耕作具痕	6	写真図版・抄録・奥付	
3. 溝	6		

図版目次

第1図 調査区位置図	2	第9図 4号畦畔	9
第2図 周辺遺跡分布図	3	第10図 第2面水田面出土遺物図	9
第3図 調査区全体図・基本層序図	4	第11図 3・4号溝	10
第4図 1・2号畦畔	5	第12図 昭和町遺跡2の	
第5図 耕作具痕	6	プラント・オパール分析結果	14
第6図 1・2号溝および1号溝出土遺物図	7	第13図 昭和町遺跡2の	
第7図 1号井戸	7	プラント・オパール	15
第8図 第2面水田跡全体図	8		

表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	3	第5表 第2面検出ピット計測表	11
第2表 1号溝出土遺物観察表	7	第6表 遺構外出土遺物観察表	11
第3表 第1面検出ピット計測表	8	第7表 高崎市昭和町遺跡2の	
第4表 第2面水田面出土遺物観察表	9	プラント・オパール分析結果	14

写真目次

写真図版1 調査区鳥瞰	写真図版3 足跡群2全景
第1面全景	足跡群1 土層断面
写真図版2 第2面全景	第2面調査区西側水田跡検出状況
1・2号溝全景	3号溝全景
1号溝遺物出土状況	4号溝検出状況
調査区西側耕作具痕検出状況	4号溝全景
耕作具痕土層断面	本調査で出土した遺物

I. 調査に至る経緯

平成26年6月、学校法人新島学園（以下事業者）より高崎市に、昭和町に所在する新島学園短期大学の体育館の建替えに関する開発事前協議書が提出された。文化財保護に関して意見を求められた高崎市教育委員会（以下市教委）は、隣接地で古墳時代から平安時代の水田遺構が調査されており、周辺地域にも拡がる可能性が大きいことから、試掘調査による確認を行うことと、その結果による工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年8月12日付で事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年8月20日に工事予定地の試掘調査を実施し、部分的に古墳時代と平安時代の二面の水田遺構を確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、新体育館予定地の内遺構が残存する部分について記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、株式会社歴史の杜に委託して実施することとなり、平成26年9月30日付で高崎市・事業者・歴史の杜の間で三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成26年10月1日付で事業者と歴史の杜の二者で発掘調査委託契約が締結された。

II. 調査の方法と経過

調査の方法 発掘調査面積は330m²である。表土掘削は0.45m³バックホーを使用した。遺構確認面は第1面がAs-Bテフラ一次堆積層直下のIX層の上面、第2面がHr-FA洪水層に対応する層の下であるXⅡB層の上面である。ジョレンで遺構確認を行い、移植ゴテで遺構精査を行った。耕作具痕や足跡などは状態の良いものを選別し、覆土の状況を調べた。遺構の記録は平面・断面図測量及び写真、文章の記述で行っている。遺構実測図は光波測距儀を用いて、1/20を基本に作成した。遺構写真は35mm白黒・カラーリバーサルフィルム、デジタルカメラで撮影した。フィルムカメラについては段階露光で3枚一組を基本に撮影した。

調査の経過 発掘調査は平成26年10月6日から10月21日まで実施した。6日に器材を搬入し、7日は調査区範囲の割り出しを行った。8日から第1面の表土掘削を開始し、11日に全景写真を撮影した。14日は台風19号により、調査区が水没したため排水作業を行った。15日に第1面の遺構測量を行った。16日から第2面の表土掘削を開始した。疑似畦畔とわずかな畦畔の高まりで水田を確認した。20日に第2面の遺構測量、プラント・オパール分析試料の採取を行った。21日はラジコンヘリコプターによる空撮を行ったのち、高崎市教育委員会の終了確認を受けた。その後、器材搬出・現場後片付けなどを行い、現場の作業は終了した。

III. 遺跡の立地と環境（第1・2図、第1表）

遺跡位置と周辺の地形 本遺跡は群馬県高崎市昭和町に所在し、JR北高崎駅から直線距離で南東に約300mを測る。本調査区は新島学園短期大学の校地内に所在する。本遺跡の南西部に観音山の丘陵地があり、北西に榛名山がそびえている。榛名山は古墳時代に2度の大噴火をおこし、群馬県は甚大な被害を被った。本遺跡は高崎台地上の烏川と井野川に挟まれた地域に立地する。高崎台地は二万三千年前の前橋泥流と、一万一千年前の高崎泥流により形成される。なお本遺跡のすぐ側を長野堰・一貫堀川が流れている。

歴史的環境 周辺遺跡の内容について第1表にもまとめたのでご覧いただきたい。

古墳時代 下小鳥町遺跡（3）では古墳時代前期の集落が発見されている。貝沢I遺跡では祭祀遺構（9）、上並榎屋敷前遺跡（36）では玉造工房が調査されている。水田跡はAs-C下水田が並榎北遺跡（13）、並榎北Ⅱ・Ⅲ遺跡（19）、並榎北IV遺跡（26）、並榎北V遺跡（27）と本遺跡の周囲で検出されている。時代が下り、Hr-FA下水田は検出事例が増すようである。

奈良・平安時代 本遺跡周辺では該期の集落跡は少ないようで、下小鳥町遺跡、日光町遺跡（37）が該当する。

水田数は前代と比べ増加するようである。水田の中には大畦畔を持つものがある。また大八木水田遺跡（2）は条里制がしかれた水田であるが、同じ条里地割りを持つ遺跡として、並榎北遺跡（13）、飯塚新田西Ⅱ遺跡（21）などがある。なお、本遺跡の南側に昭和町I遺跡（39）がある。中世 井伊直政が治める以前は、和田氏がこの辺りを治めていた。和田氏関連の遺跡として並榎城（17）がある。この城は16世紀の城で、箕輪城を居城とする長野氏と和田氏は対立を深め、並榎城は境目の城として重要な役割を担った。この他、中世の遺跡として赤土屋敷（33）、江木環濠遺構（41）などが挙げられる。

IV. 基本層序 (第3図)

A～Fの6地点で基本層序を確認した。

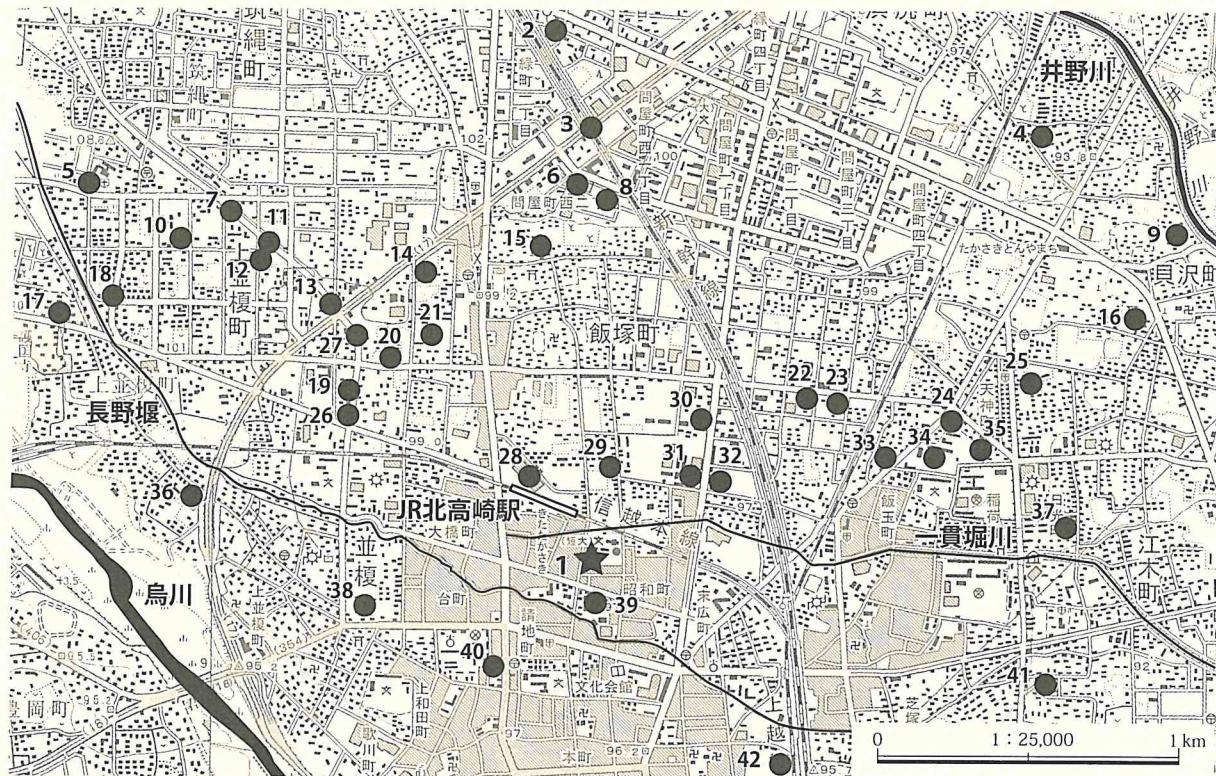
- I. 褐色土 10YR4/4 しまり硬い。粘性あり。礫含む。
- II. 暗オリーブ褐色土 2.5Y3/3 しまり・粘性あり。炭化物 ($\phi 1 \sim 2 \text{ mm}$) 少量含む。
- III. オリーブ褐色軽石 2.5Y4/3 しまりややあり。粘性なし。As-A 軽石 ($\phi 1 \text{ mm}$) の純層。
- IV. オリーブ褐色土 2.5Y4/3 しまり・粘性あり。砂微量含む。
- V. オリーブ褐色土 2.5Y4/3 しまり・粘性あり。As-B 軽石 ($\phi 0.5 \text{ mm}$) 少量含む。砂微量含む。
- VI. 暗褐色土 10YR3/3 しまりあり。粘性弱い。As-B 軽石多量含む。
- VII. 暗褐色土 10YR3/3 しまりあり。粘性弱い。As-B 軽石多量含む。
- VIII. オリーブ褐色軽石 2.5Y4/3 しまりややあり。粘性なし。As-B 軽石 ($\phi 0.5 \text{ mm}$) 多量含む。
青灰色火山灰少量含む。
- IX. 黒褐色土 2.5Y3/2 しまり・粘性あり。砂微量含む。橙色土を疎らに微量含む。
- X. 灰黄色火山灰 2.5Y6/2 しまり・粘性あり。
Hr-FA を帶状に多量含む。オリーブ黒色土少量含む。
- X I. オリーブ黒色土 5Y3/2 しまり・粘性あり。
Hr-FA ブロック ($\phi 1 \text{ cm}$)・As-C 軽石 ($\phi 1 \sim 2 \text{ mm}$) 少量含む。
- X II A. 黒色土 10Y2/1 しまり弱い。粘性あり。
As-C 軽石 ($\phi 1 \sim 2 \text{ mm}$) 含む。砂少量含む。
- X II B. 黒色土 10Y2/1 しまり硬い。粘性あり。
As-C 軽石 ($\phi 1 \sim 2 \text{ mm}$) 少量含む。
- X III. 黒褐色土 2.5Y3/2 しまり・粘性あり。赤サビ状のものをブロック ($\phi 1 \sim 3 \text{ cm}$) で多量含む。
砂含む。
- X IV. 黒褐色土 10YR4/3 しまりあり。粘性強い。



第1図 調査区位置図 (1/2,500)

III層は調査区内で、散見されたAs-A 軽石の層である。
VI層はA地点で検出され、ピット状に落ち込む。VIII層はAs-B 軽石層である。火山灰は少量の検出であった。
IX層の上面は第1面の遺構確認面である。橙色の土が薄く疎らに広がる。なおB～D地点のIX層はAs-B下水田に伴う畦畔の可能性がある。

X層はHr-FAが多く観察できたので分層した。X I層がいわゆるHr-FA洪水層に対応する層であろうが、



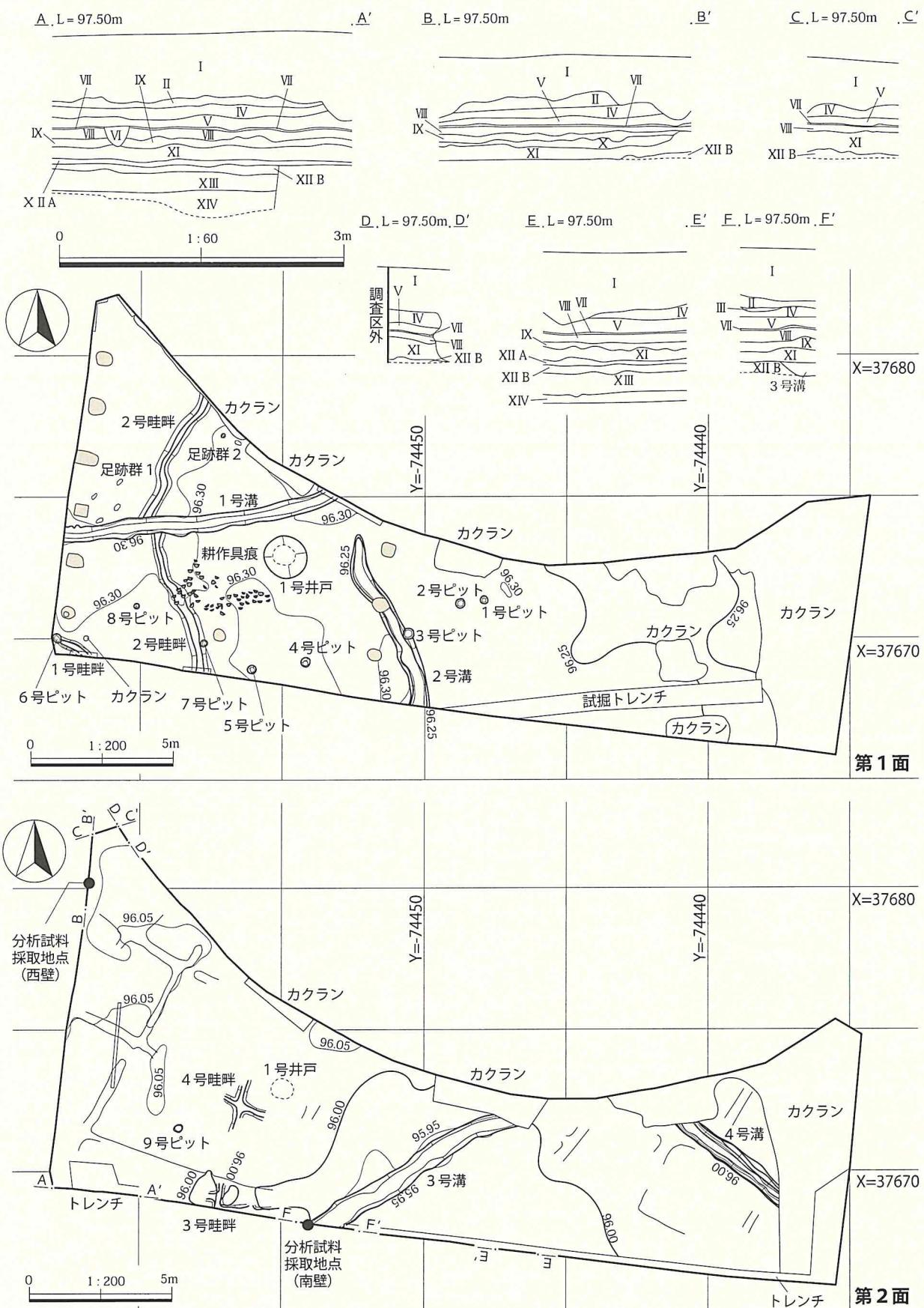
第2図 周辺遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	内容
1	昭和町遺跡	本報告。
2	大八木水田遺跡	As-B 下水田。大畦畔。条里地割り。坪内区割り。
3	下小島町遺跡	中世。奈良・平安時代、古墳時代前期集落。As-B 下水田。
4	浜尻宅地後遺跡	古墳時代住居。古墳。集石遺構。
5	筑縄小星山古墳	円墳。径約 25m。両袖型石室。6世紀後半。
6	大八木富士廻り遺跡	Hr-FA 下水田。弥生時代住居跡。
7	上並榎御料所 I 遺跡	Hr-FA 下水田。
8	間屋町西遺跡	As-B 下水田。Hr-FA 下水田。
9	貝沢 I 遺跡	5世紀末～6世紀初頃。祭祀遺構。滑石製模造品。
10	上並榎御料所 II 遺跡	As-B 下水田。Hr-FA 下水田。
11	上並榎下松 I 遺跡	Hr-FA 下水田。大畦畔。
12	上並榎下松 II 遺跡	As-B 下水田。大畦畔。Hr-FA 下水田。
13	並榎北遺跡	As-B 下水田。大畦畔。Hr-FA 下水田。As-C 下水田。弥生時代後期水田。
14	飯塙慈音寺遺跡	As-B 下水田。
15	飯塙西金井遺跡	As-B 下水田。
16	五靈神社古墳	全長 50m の前方後円墳。金屬製馬具。6世紀後半。
17	並榎城	和田氏の城。16世紀。圓郭式。
18	上並榎稻荷山古墳	全長約 120m の前方後円墳。舟形石棺。5世紀後半。
19	並榎北 II・III 遺跡	As-B 下水田。大畦畔。Hr-FA 下水田。As-C 下水田。弥生時代後期水田。

番号	遺跡名	内容
20	飯塙西新田・雁田遺跡	Hr-FA 下水田。
21	飯塙新田西 II 遺跡	As-B 下水田。Hr-FA 下水田。
22	飯塙十二前遺跡	As-B 下水田。
23	飯塙大苗代遺跡	As-B 下水田。
24	稻荷町 II 遺跡	古墳時代前期集落。弥生時代中期集落。
25	貝沢天神遺跡	古墳時代住居。
26	並榎北 IV 遺跡	As-B 下水田。大畦畔。Hr-FA 下水田。As-C 下水田。
27	並榎北 V 遺跡	As-B 下水田。大畦畔。Hr-FA 下水田。As-C 下水田。
28	飯塙大道東遺跡	As-B 下水田。Hr-FA 下水田。
29	飯塙西金井遺跡	As-B 下水田。
30	飯塙東金井遺跡	As-B 下水田。大畦畔。
31	飯塙西金井 II 遺跡	碓氷社製糸工場関連資料。近世。中世。As-B 下水田。大畦畔。
32	飯塙東金井 II 遺跡	As-B 下水田。
33	赤土屋敷	16世紀。嘉永年間まで新井氏居住か。
34	飯玉 I・II 遺跡	As-B 下水田。
35	稻荷町 I 遺跡	古墳時代住居跡。
36	上並榎屋敷前遺跡	6世紀代。堅穴住居跡。玉作りの工房兼住居。
37	日光町遺跡	As-B 下水田。平安時代住居跡。
38	並榎台原遺跡	古墳時代後期集落。
39	昭和町 I 遺跡	As-B 下水田。
40	住吉町 I 遺跡	As-B 下水田。
41	江木環濠遺構	環濠屋敷。5つの屋敷跡。
42	江木諫訪西遺跡	As-B 下水田。

粘質土であり、水田土壤化している状況が窺える。よって X I 層については、洪水層と言い難いので二次堆積層としたい。X II B 層は As-C 軽石を含む硬い層で、この上面で遺構を確認した。直上の X II A 層は色調や混入物が類似する層であるものの、As-C 軽石の入っている割合が X II B 層よりも多く、砂なども混じる。なお X II A 層は Hr-FA ブロック ($\phi 2\text{ cm}$) が上層からの混入という状況で稀に検出される。



第3図 調査区全体図・基本層序図

V. 検出された遺構と遺物

本遺跡では第1面でAs-Bテフラ下の水田跡とAs-Bテフラ低下以降の溝2条・井戸1基・ピット8基を、第2面でXⅠ層の下からHr-FA二次堆積層下の水田跡、および擬似畦畔で確認できたAs-C混土を耕作土とする水田跡、溝2条とピット1基を検出した。また調査区西半で現在の新島学園短期大学体育館より古い建物の痕跡（柱痕）が見つかった。これは本調査区を含めた敷地に存在した以前の高崎市立女子高等学校、もしくは高崎市立第2幼稚園に関連する建物の可能性がある（高市女65年史編纂委員会1990）。

遺物は第1面で溝から瓦片、第2面水田面で土師器片が出土した。また東端のカクラン土中から近現代の磁器やガラス製品が出土した。

第1面

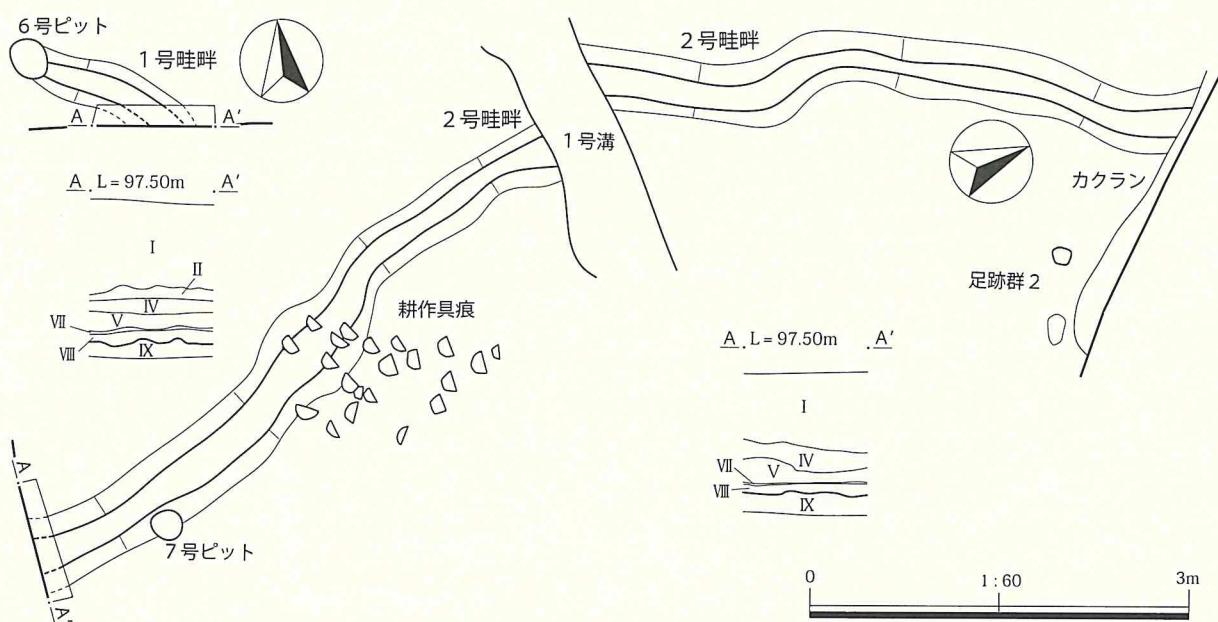
1. As-B下水田（第3・4図／写真図版1・3）

本遺跡では、VII層（As-Bテフラ一次堆積層）が全面に4～12cmほど堆積する。As-Bテフラ直下からは、やや不明瞭ではあるが水田跡を検出した。水田面は調査区西側で標高96.30m、調査区東側で標高96.25mを測り西から東へ緩やかに傾斜している。大畦畔は認められず、わずかな高まりが調査区西半で認められ小畦畔の可能性があり、ここでは畦畔として報告する。なお、調査区東半では畦畔は検出されなかった。

畦畔は2条検出され、それぞれ1号畦畔・2号畦畔とした。1号畦畔は調査区南西端で東西方向に検出された。水田面との比高差は2～4cmで、下幅28～38cmを測る。2号畦畔は調査区西側で検出され、南北方向に走行するがやや蛇行している。ちょうど2号溝に切られた部分で畦畔の角度が変わるように見える。水田面との比高差は1～2cmで、下幅34～72cmを測る。両畦畔とも遺存状況は悪く、断面は薄く平坦な台形状で、1号畦畔は中央が窪む部分もある。2号畦畔の上面に橙色土が薄く疎らに広がる。検出状況から両畦畔は調査区外南側で交わる可能性が考えられる。

水口や水路は確認されなかった。畦畔の検出が一部にとどまったため、各水田面の面積は不明である。

西側中ほど、1号溝より北を中心としてAs-Bテフラで埋没した足跡を検出した。しかし連続しておらず歩行の軌跡は判明しなかった。また西側の北壁付近では牛馬の蹄痕跡と考えられる窪みを検出したが、やはり連



第4図 1・2号畦畔

続しなかった。これら足跡・蹄跡かとしたものは底面に青灰色の火山灰が認められた。遺構検出面でも同様の火山灰が少量検出されたことから、上述の足跡などは As-B テフラ降下前には形成されていたと思われ、As-B テフラ降下時に水田とともに埋没したものと考えられる。

2. 耕作具痕 (第5図／写真図版2)

調査区西側中央に耕作具痕と推定される痕跡を 52 箇所検出した。2号畦畔を掘りこむものもある。耕作具痕は平面で半月状に認められ、弦の部分がほぼ垂直に掘り下がり、斜めに立ち上がって弧状の痕跡を残す。その痕跡から U字状の刃先をもつ鋤状の工具と推測できる。耕作具痕の方向は、弧の方を南側とするものが大多数である。弦の幅は 15cm 前後のものが多く、深さは 4 cm ほどである。耕作具痕は暗褐色土を僅かに含む As-B 軽石を覆土とする。遺構確認面には青灰色の火山灰が認められたが、耕作具痕底面には認められなかった。よって、これらの耕作具痕は少なくとも As-B テフラ降下後のものと考えられる。耕作具痕の覆土は As-B 軽石を主体とすることから、As-B テフラ降下から大幅に時間の下るものではないと思われる。

3. 溝 (第6図／写真図版2)

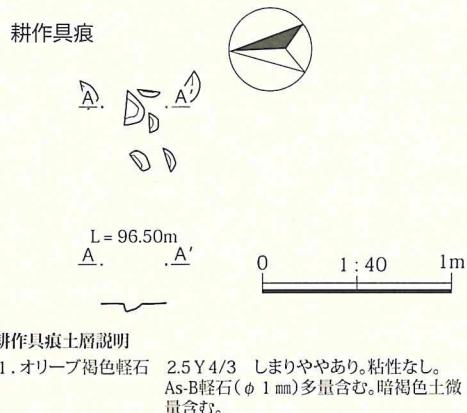
2条が検出された。下層は異なるが、上層が As-B 混土で埋没している点は共通する。As-B 下水田の埋没土であるⅧ層を切ることや覆土の状況から、1・2号溝とも As-B テフラ降下以降のものと考えられる。両溝は走向こそ違うが、幅などの規模は似通っているという特徴がある。

1号溝

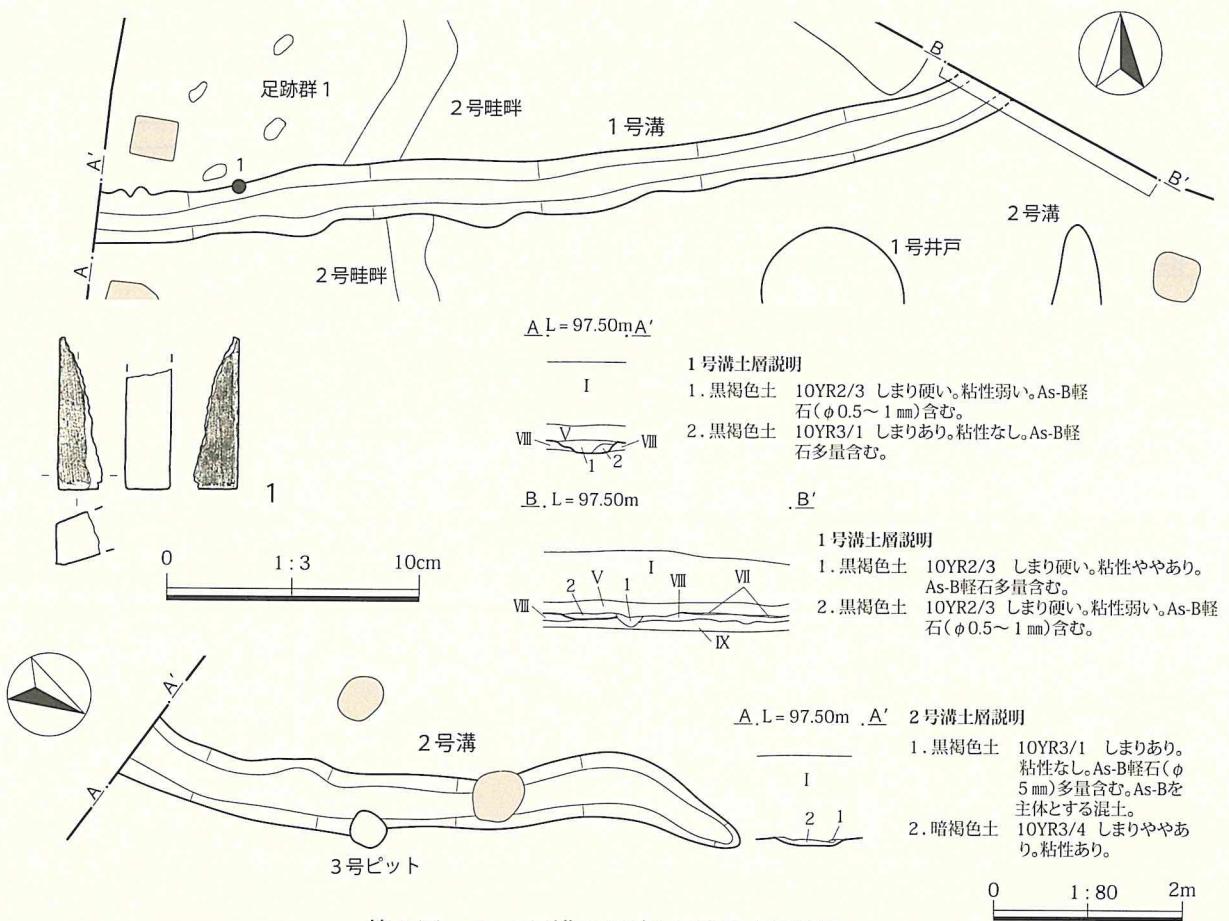
位置：調査区中央より西に位置し、北・西側は調査区外へ続く。重複：As-B 下水田より新しい（2号畦畔を切る）、1号溝 SPB-B' でピット状を呈する 1層より古い。形態：北東から南西へほぼ直線的に走行する。底面は西側が若干深い。断面は逆台形状を呈する。規模：長さ 9.6m 以上、幅 46～74cm を測る。残存深度：確認面からの深さ 1.5～4.5cm、断面でⅧ層からの深さ 6～14cm を測る。長軸方位：N - 82° - E。埋没状態：西側では下層が流れ込みと思われる二次堆積の As-B 軽石が認められ、上層が As-B 混土を主体としている。北側では As-B 混土の单層となる。Ⅷ層を掘り込んで作られた溝で、自然堆積と推定される。遺物：瓦の破片が 1点、底面から出土した。棟瓦の端部片と考えられ、近世もしくは近代以降の所産となる。備考：棟瓦は 1点の破片のみという出土状況から、混入などによる後代の紛れ込みとも考えられ、必ずしも遺構の年代を決定付けるものではない。また本溝は極端に浅く、上層のⅤ層が本溝を切るように堆積していることから、本来はもっと高い位置から掘りこまれた溝の可能性がある。

2号溝

位置：調査区中央に位置し、南側は調査区外へ続く。重複：As-B 下水田より新しく、3号ピットより古い。形態：南から北へ走向し、やや西へ湾曲する。北側で途切れる。底面は北側が深い。断面は皿状を呈する。規模：長さ 6.6 m 以上、幅 52～74cm を測る。残存深度：確認面からの深さ 6.5～10cm である。長軸方位：N - 20° - W。埋没状態：粘性のある暗褐色土を主体とし、上層に As-B 混土が認められる。自然堆積と推定される。遺物：なし。備考：本溝は北側で途切れており、1号溝 SPB-B' の観察からも北へは続かないことが窺える。また、覆土に As-B 軽石を含むことから、本溝は As-B テフラ降下以降に帰属するだろう。



第5図 耕作具痕



第6図 1・2号溝および1号溝出土遺物図

第2表 1号溝出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)			①焼成②色調 ③胎土④残存	成・整形技法の特徴など	備考
		口径	底径	器高			
1	瓦・棧瓦	—	—	—	①一 ②黄灰色 ③白色粒 ④破片	凸面ナデ。凹面ナデ。端部に面取りがなされる。	近世以降

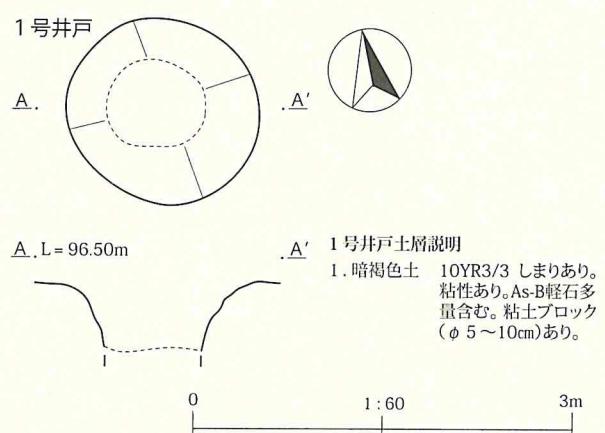
4. 井戸 (第7図)

1号井戸

位置：調査区中央より西側に位置する。平面形態：ほぼ円形。規模：長軸 154cm、短軸 144cm。深度：52cm以上。埋没状態：粘性を有する暗褐色のAs-B混土で埋没する。湧水のため途中で掘り止めたが、その面では礫が少量認められた。遺物：なし。備考：素掘りで、石組みなどは見受けられない。覆土からAs-Bテフラ降下以降に帰属すると考えられる。

5. ピット (第3表)

ピットは計8基が検出された。1～3号ピットは調査区中央付近、4～8号ピットは調査区西半の南側に位置する。重複は3号ピットが2号溝より新しく、6号ピットが1号畦畔より新しい。ピットはすべてAs-B混土で埋没しており、柱痕は認められなかった。遺物は出土していない。また基本層序A地点で断面がピット状を呈するVI層や1号溝 SPB-B' の1層もまた、As-B混土で埋没する。1～3号ピットは非常に浅く、確認



第7図 1号井戸

第3表 第1面検出ピット計測表

遺構名	グリッド	形態	規模(cm)	深さ(cm)	備考
1号ピット	X=37675、Y=-74450	円形	24×24	3	黒褐色。As-B混土。
2号ピット	X=37675、Y=-74450	円形	32×30	8	黒褐色。As-B混土。
3号ピット	X=37675、Y=-74455	円形	36×32	4	黒褐色。As-B混土。
4号ピット	X=37670、Y=-74455	円形	33×32	43	暗褐色。As-B混土。黄褐色土ブロック(Φ1~3mm)少量含む。
5号ピット	X=37670、Y=-74460	円形	31×30	41	暗褐色。As-B混土。黄褐色土ブロック(Φ1~3mm)少量含む。
6号ピット	X=37675、Y=-74465	楕円形	36×28	5	暗褐色。As-B混土。
7号ピット	X=37670、Y=-74460	円形	26×23	17	暗褐色。As-B混土。黄褐色土ブロック(Φ1~3mm)少量含む。
8号ピット	X=37675、Y=-74465	円形	18×18	20	暗褐色。As-B混土。

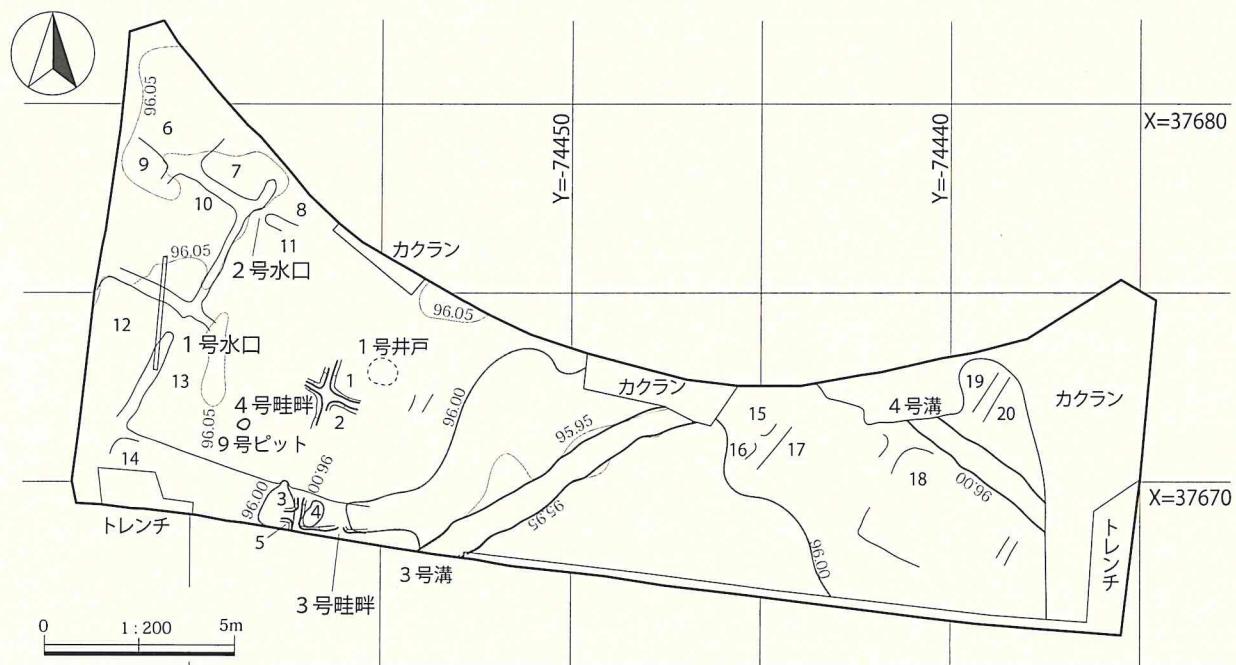
面からの深さは3~8cmに過ぎないが、今回遺構として扱った。これは1号溝やVI層の状況から、As-B混土を覆土とするピットもまたVII層やVIII層を掘り込み、V層に切られている可能性があり、本来はより深度を伴つたものであることが想定されたからである。これらのピットは覆土から、As-Bテフラ降下以降に帰属するものと考えられる。

なお4号ピットと5号ピットは、規模もほぼ同じであり組み合う可能性があり、柵列あるいは掘立柱建物跡などの可能性も考えられる。その場合ピット間の芯心距離は1.9mとなる。仮に4・5号ピットが掘立柱建物跡であるならば、それと軸方向を揃えて1・2号溝が位置し、掘立柱建物跡と井戸を囲う形になるとも見受けられる。いずれにせよ調査区外南側へ続くことが想定され全容は不明であり、1つの可能性として指摘するだけにとどめる。

第2面

1. As-B下水田より前の水田跡(第8~10図/第4表/写真図版2・3)

いわゆるHr-FA洪水層下水田跡は、6世紀初頭の榛名山二ツ岳の噴火に伴う洪水と推定される堆積物により埋没したものである。本遺跡においてHr-FA洪水層はX I層が該当し、調査区全域で10~20cmほど堆積するのが確認できる。しかしながらX I層は粘質土で水田土壤化しているので、洪水層形成後も水田が営まれていた可能性があり、少なくともAs-B下水田耕作時の攪拌を受けている。したがってX I層は洪水の堆積物

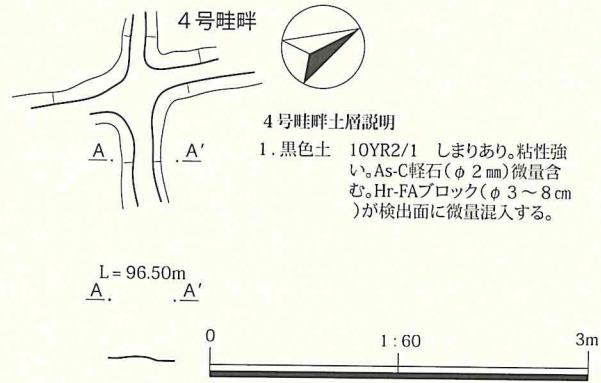


そのものであるとは言いがたく、IX層直下の高まりを持つ畦畔に伴う水田は、Hr-FA二次堆積層下水田と呼称したい。畦畔による区画が確認できるものを1面、2面と呼称した。区画は合計で20面以上存在するとと思われるが、水田面の遺存状況は悪く実際の面数は不明瞭である。水田面は調査区中央、3号溝付近が標高95.94mと低くなり、調査区西側で96.05m、調査区東側で96.03mとなり中央部と東西側は9~11cmほどの比高差をもつ。また調査区北西端部は標高96.10m、南西端部は96.01mで9cmの比高差をもち北西端部がやや盛り上がる。このように調査区は中央に向かって東西が緩やかに傾斜し、更に北から南に緩やかに下る地形であるが、後世のカクランを受けたため地形が変わっている可能性にも留意する必要がある。

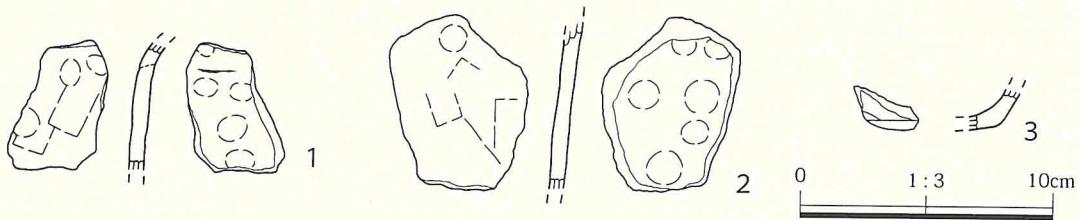
畦畔には上述の明瞭な高まりをもって認められたもの（3・4号畦畔）と疑似畦畔がある。疑似畦畔は、As-C軽石を多く含む水田耕作面に対して、As-C軽石の少ない部分を畦畔の痕跡として考えた。As-C軽石の多寡で畦畔の確認が可能であったのは主に調査区西側であり、畦畔の可能性があるものは13条以上となる。また第2面として一括したが、水田区画13・14面を分ける畦畔と3・5面を分ける畦畔は位置が合わず、水田の作りかえが窺える。しかし両者の間で明瞭な水田面の高低差や、切り合い関係などは認められなかった。以下、Hr-FA二次堆積層下水田として高まりをもつ畦畔に伴う水田と、As-C混土水田として擬似畦畔に伴う水田を順に記述する。

Hr-FA二次堆積層下水田は1~5面が該当する。畦畔は2ヶ所で確認された。3号畦畔は、調査区東側の南壁付近に位置する。残存状況から、東西南北方向に伸びるようである。水田面との比高差は1~4cm、下幅29~36cmを測る。4号畦畔は3号畦畔から2mほど北で確認され、十字状を呈している。水田面との比高差は1~4cm、下幅28~36cmを測る。断面は緩やかな山形で、僅かな盛り上がりとして認められる。3・4号畦畔の中で南北方向のものは、途切れではないものの直線状に認められ、本来は連続する一連の畦畔であった可能性がある。畦畔の検出が部分的であるため水田面面積は推定できない。水口や水路も検出されなかった。

As-C混土水田は6~20面が該当する。畦畔は擬似畦畔のため水田面との比高差は認められない。幅は20~46cmほどである。確認できる水田区画15面のうち、面積が推定できるのは10・12・18の3面である。



第9図 4号畦畔



第10図 第2面水田面出土遺物図

第4表 第2面水田面出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)		①焼成②色調 ③胎土④残存	成・整形技法の特徴など	備考	
		口径	底径				
1	土師器・甕か	口径一	底径一	器高一	①酸化焰・良好 ②にぶい橙色 ③角閃石・石英・砂礫 ④口縁部破片	輪積み成形。弱く外反する口縁部。外面は斜位ヘラケズリ。指頭痕あり。内面はナデ。指頭痕、輪積み痕あり。2と同一個体の可能性あり。器形から壺の可能性も考えられる。	古墳時代後期
2	土師器・甕か	口径一	底径一	器高一	①酸化焰・良好 ②にぶい橙色 ③角閃石・石英・砂礫 ④胴部破片	輪積み成形。外面は縦・斜位ヘラケズリ。指頭痕あり。内面は横位ナデ。指頭痕あり。内外面ともやや磨滅する。1と同一個体の可能性あり。	古墳時代後期
3	土師器・壺	口径一	底径一	器高一	①酸化焰・良好 ②外面:明褐色 内面:橙色 ③黒色粒子 ④口辺~胴部破片	模倣壺。輪積み成形。胴部と口辺部の境に稜を持つ。外面はケズリ。内面はナデ。	古墳時代後期

10・12面はそれぞれ $6.09m^2$ ・ $7.14m^2$ で、今回確認できた中では小規模である。18面は $10.26m^2$ となり10・12面より大規模になるが、間に南北方向の畦畔があったとすれば $5\sim 6m^2$ の面積となる。その場合10・12面に近い規模となろう。水口は2箇所で確認された。1号水口を12面と13面間で、2号水口は8面と11面間で検出した。水田面の現状での高低差から考えると、1号水口は西から東へ、2号水口は北から南へ水を流したものと思われる。水路は検出されなかった。

遺物は水田面直上で6点認められた。4点が3号畦畔の北東で、2点が4号溝付近で出土している。すべて土師器片である。それらの中から3点を掲載する。1・2は胎土や器厚などから同一個体となる可能性がある。ここに掲載した資料は、全て古墳時代後期に帰属すると考えられる。

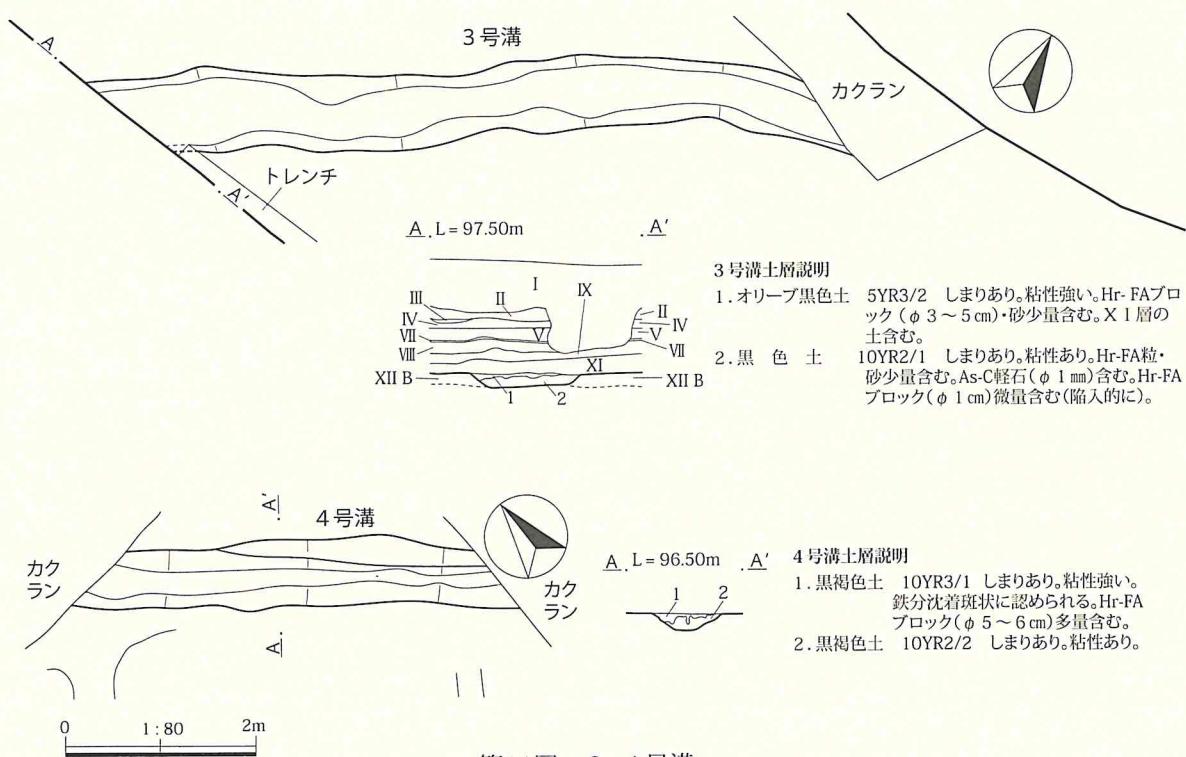
このように第2面で検出された水田跡はAs-B下水田よりも前のものと考えられるが、小区画水田であること、水田面から古墳時代後期の遺物が出土していること、Hr-FA洪水層に起因するXⅠ層の存在などを踏まえれば、古墳時代に該当する可能性があると思われる。また、第2面検出の水田跡は、Hr-FA二次堆積層下水田とAs-C混土水田とに分けて考えているが、走向が4号畦畔と1号水口付近の擬似畦畔で東西方向に一致するようであり、痕跡が連続している様子が窺える。

2. 溝（第11図／写真図版3）

2条が検出された。共に埋没状態や切り合いから、少なくともAs-C混土水田より新しい時期が想定され、Hr-FA洪水層で最終的に埋没した様相を呈する。Hr-FAブロックが認められたのは3・4号溝上層で、特に4号溝上層には多く認められた。この状況は写真図版3に掲載してある。ほかに第2面では遺構検出面で部分的に窪みに入り込んだHr-FAブロックが認められるだけである。3・4号溝とも性格は不明である。

3号溝

位置：調査区中央に位置し、南側は調査区外へ続く。北側は現代のカクランを受けている。重複：As-C混土水田より新しい。形態：北東から南西方向へほぼ直線的に走行し、北側でやや東に傾く。そのため傾きをもつたまま直線的に伸びれば、カクランの東で検出できるはずだが認められなかった。したがってカクランの範囲



第11図 3・4号溝

内で溝が途切れるか、さらに北に傾きをもって調査区外へ続く可能性が考えられる。底面は北東側が浅い。断面は皿状を呈する。規模：長さ7.4m以上、幅58～92cm。残存深度：確認面からの深さ1.0～6.5cm、3号溝断面で14cmである。長軸方位：N - 58° - E。埋没状態：上層はHr-FAブロックを含む黒色粘質土、下層はAs-C軽石を含む黒色粘質土を主体とし、部分的にHr-FAブロックが微量含まれる。自然堆積と推定される。遺物：なし。備考：As-C混土水田面を掘り込み、Hr-FA洪水層堆積以前にほぼ埋没しており、Hr-FA洪水層で完全に埋没したようである。

4号溝

位置：調査区東側に位置し、北・東側は調査区外へ続く。両側とも現代のカクランを受ける。重複：As-C混土水田より新しい（As-C混土水田の擬似畦畔を切る）。形態：南東から北西方向へほぼ直線的に走行する。底面は中ほどが下がるが、概ね平坦である。断面は逆台形状を呈する。規模：長さ4.2m以上、幅59～72cm。残存深度：確認面からの深さ15～20cmである。長軸方位：N - 51° - W。埋没状態：上層は3号溝に類似し、黒褐色粘質土でHr-FAをブロック状に多量に含む。本溝検出時はHr-FAのブロックが一面覆っている状態であった。この状況は写真図版3に掲載している。下層は黒褐色土を主体とする。自然堆積と推定される。遺物：なし。備考：As-C混土水田面を掘り込み、Hr-FA洪水層堆積以前に半分ほど埋没しており、Hr-FA洪水層で完全に埋没したようである。

3. ピット（第5表）

調査区西側で1基のみ検出された（9号ピット）。遺物は出土していない。

第5表 第2面検出ピット計測表

遺構名	グリッド	形態	規模(cm)	深さ(cm)	備考
9号ピット	X=37675、Y=-74460	不整円形	30×24	14	暗褐色土。X I層類似のブロック含む。

遺構外出土遺物（第6表／写真図版3）

主に調査区東側のカクラン土中から、近現代を中心とした遺物が出土している。写真のみ掲載した。磁器は盃が2点（1・2）、湯呑が1点（3）である。ガラス製容器（4）は薬品容器と思われる。1は高台部に穿孔が2か所確認できる。2は「上並榎天龍護国寺」の文字が書かれる。天龍護国寺は高崎市上並榎町に所在する天台宗寺院である。

第6表 遺構外出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調 ③胎土④残存	成・整形技法の特徴など	備考
		口径 底径 器高			
1	磁器・盃	口径5.5 底径3.1 器高2.6	①- ②灰白 ③- ④完存	呉須絵付け。口縁部に「高崎住吉町鯉池屋酒店」、見込みに「住よ志」と書かれる。高台部に2か所の穿孔が認められる。灰釉施釉だが、高台接地面は露胎となる。	
2	磁器・盃	口径7.0 底径2.6 器高2.8	①- ②灰白 ③- ④完存	上絵付け。見込みに「高崎厄除元三大師護身講上並榎天龍護国寺と朱書きされる。灰釉施釉だが、高台の接地面は露胎となる。	
3	磁器・湯呑茶碗	口径6.0～6.3 底径3.8 器高6.9	①- ②灰白 ③- ④完存	吹絵による呉須絵付け。梅樹文を描く。茶色の絵の具で「米穀畠表拿御前 岸や号（菱の中にイ）朝倉商店 電九百十八」と書かれる。灰釉施釉だが、高台接地面は露胎となる。器形は真円を描かず、梢円形となる。	昭和
4	ガラス製品・薬瓶	口径6.0 底径6.1 器高13.6	①- ②無色透明 ③- ④完存	瓶としては完存だが、蓋ないし栓となる部分は出土しなかった。気泡の入るガラスで、特に底部の厚さが不均一である。	

VI. 昭和町遺跡2のプラント・オパール分析報告

株式会社古環境研究所

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール（植物珪酸体）分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山, 2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山, 1984）。

昭和町遺跡2の発掘調査では、浅間Bテフラ (As-B) 直下層と、さらにその下位層において水田遺構が検出された。そこで、これらの遺構における稻作の可能性を検討する目的で、プラント・オパール分析を実施することになった。

2. 試料

分析調査の対象となったのは、調査区の西壁と南壁の2地点である。分析試料は、西壁では上位よりIX層(As-B直下)、X層、XI層、XII B層、南壁では上位よりIX層、XI層、XII A層より採取された。

3. 分析方法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原, 1976）をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105°C で 24 時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約 1 g に直径約 $40 \mu\text{m}$ のガラスピーブーズを約 0.02g 添加（電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法 ($550^{\circ}\text{C} \cdot 6$ 時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 ($300\text{W} \cdot 42\text{KHz} \cdot 10$ 分間) による分散
- 5) 沈底法による $20 \mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスピーブーズ個数が 500 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料 1 g 中のプラント・オパール個数（試料 1 gあたりのガラスピーブーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスピーブーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（ここでは 1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位：10 – 5 g）を乗じて、単位面積で層厚 1 cm あたりの植物体生産量を算出した。

各分類群の換算係数は、イネ（赤米）は 2.94（種実重は 1.03）、ヒエ属は 8.40、ヨシ属（ヨシ）は 6.31、ススキ属（ススキ）は 1.24、メダケ節は 1.16、ネザサ節は 0.48、チマキザサ節は 0.75、ミヤコザサ節は 0.30 である（杉山, 2000）。

4. 結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科（メダケ節型、ネザサ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型）および未分類である。これらの分類群について定量を

行い、その結果を第7表、第12図に示した。主要な分類群については顕微鏡写真を示す（第13図）。以下に、プラント・オパールの検出状況を記す。なお、植物種によって機動細胞珪酸体の生産量は相違するため、検出密度の評価は植物種ごとに異なる。

イネは、西壁と南壁のすべての層で検出されている。西壁のX層とXⅡB層、南壁のXⅠ層とXⅡA層では高い密度である。キビ族型は、西壁のIX層、X層、XⅡB層、南壁のXⅠ層、XⅡA層で検出されているが、いずれも低い密度である。ヨシ属は、すべての層で検出されている。西壁のIX層、XⅡB層、南壁のXⅡA層では高い密度である。ススキ属型は、すべての層で検出されている。西壁のIX層とXⅡB層では高い密度であり、南壁のIX層では比較的高い密度である。タケ亜科のメダケ節型とネザサ節型はすべての層で、チマキザサ節型は西壁のXⅠ層とXⅡB層で、ミヤコザサ節型は西壁のIX層で検出されているが、いずれも低い密度である。

5. 昭和町遺跡2における稻作と推定される周辺植生・環境

稻作跡（水田跡）の検証や探査を行う場合、イネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稻作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山、2000）。ただし、近年の調査では密度が3,000個/g程度あるいはそれ未満でも水田遺構が検出された例が多く報告されていることから、ここでは3,000個/gを目安とする。

本遺跡では、As-B直下層であるIX層（第1面水田）とその下位のXⅡ層（第2面水田）で水田遺構が検出されている。このうち、IX層では西壁と南壁の両地点でイネのプラント・オパールが検出された。ただし、プラント・オパール密度はいずれも1,800個/gとやや低い値である。水田遺構が検出されており、イネのプラント・オパールが確認されたことから、ここで稻作が行われていたことは疑いない。なお、プラント・オパール密度が低いことに関しては、稻作が行われていた期間が短かったこと、稻藁の多くが水田外に持ち出されたこと、イネの生産性が低かったことなどが考えられる。一方、XⅡ層では、西壁でXⅡB層、南壁でXⅡA層について分析を行ったところ、それぞれでイネのプラント・オパールが4,800個/gの高い密度で検出された。したがって、当該遺構においても稻作が行われていたと判断される。

その他の層では、西壁のX層と南壁のXⅠ層でイネのプラント・オパールがそれぞれ4,800個/g、5,400個/gの高い密度で検出された。いずれも直上のIX層よりも高い密度であり、上層から後代のプラント・オパールが混入した危険性は考えにくい。このことから、当該層においても稻作が行われていた可能性が高いと考えられる。なお、西壁のXⅠ層では1,200個/gとやや低い密度であることから、ここは耕作域外であったかもしれない。

イネ以外の分類群では、西壁のIX層、X層、XⅡB層、南壁のXⅠ層とXⅡA層でキビ族型のプラント・オパールが検出されている。種の同定はできないが、これらの層は水田耕作層あるいはその可能性が高いとみられることから、イヌビエが水田雑草として生育していた可能性が考えられる。

その他では、西壁のIX層とXⅡB層、南壁のXⅡA層でヨシ属が高い密度である。これらの層の時期は調査地の周辺は湿った環境であったことが示唆される。また、ススキ属型も高い密度であることから、畔や乾いたところにはススキ属などが生育していたと推定される。

6.まとめ

昭和町遺跡2においてプラント・オパール分析を行い、稻作の可能性について検討を行った。その結果、As-B直下のIX層および下位のXⅡ層で検出された水田跡において、稻作が行われていた可能性が認められた。

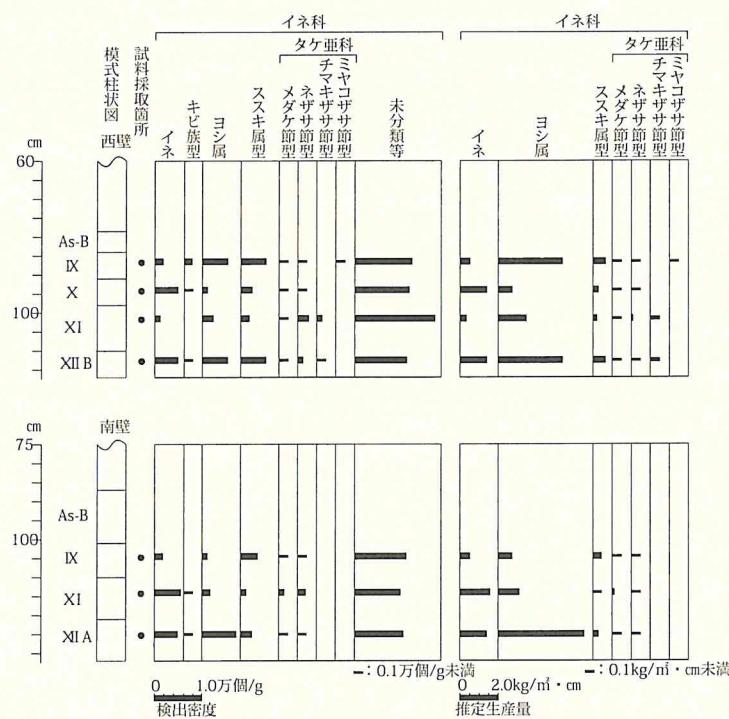
また、西壁のX層とXⅡB層、南壁のXⅠ層とXⅡA層についても稻作が行われていた可能性が認められた。なお、これらの層ではイヌビエが水田雑草として生育していたと推定された。

文献

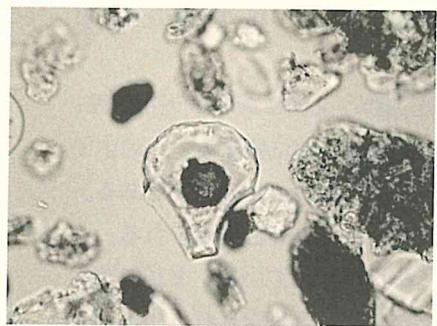
- 杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体、富士竹類植物園報告、31、p.70-83。
 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）、考古学と植物学、同成社、p.189-213。
 杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—、
 考古学と自然科学、20、p.81-92。
 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－、考古学と自然科学、9、p.15-29。
 藤原宏志（1998）稻作の起源を探る、岩波新書。

第7表 高崎市昭和町遺跡2のプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: × 100 個/g)		西壁				南壁		
分類群 (和名・学名) \ 層位		IX層	X層	X I層	X II B層	IX層	X I層	X II A層
イネ科	Gramineae (Grasses)							
イネ	Oryza sativa	18	48	12	48	18	54	48
キビ族型	Paniceae type	18	6		6		6	6
ヨシ属	Phragmites	54	12	24	54	12	18	72
ススキ属型	Miscanthus type	54	24	18	54	36	12	24
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)							
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus	6	6	6	6	6	12	6
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	6	6	24	12	6	18	6
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.				12	6		
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	6						
未分類等	Unknown	120	108	84	121	108	96	102
プラント・オパール総数	Total	282	210	180	307	186	216	264
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/nf · cm)								
イネ	Oryza sativa	0.53	1.42	0.35	1.42	0.53	1.59	1.41
ヨシ属	Phragmites	3.41	0.76	1.51	3.42	0.76	1.14	4.55
ススキ属型	Miscanthus type	0.67	0.30	0.22	0.67	0.45	0.15	0.30
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.14	0.07
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	0.03	0.03	0.11	0.06	0.03	0.09	0.03
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.				0.09	0.05		
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	0.02						



第12図 昭和町遺跡2のプラント・オパール分析結果



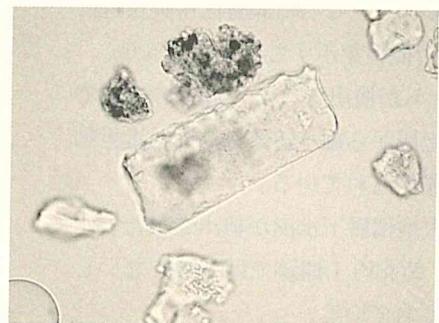
イネ（西壁 IX層）



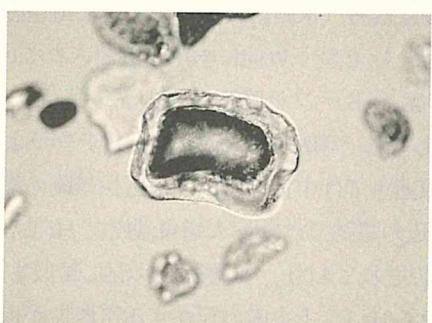
イネ（西壁 X II B層）



イネ（南壁 X II A層）



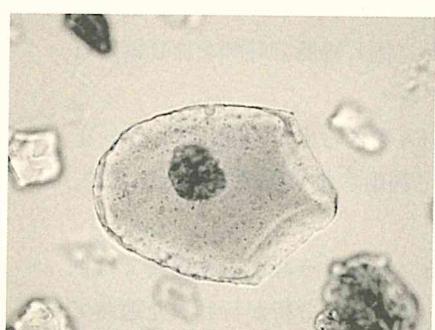
キビ族型（西壁 IX層）



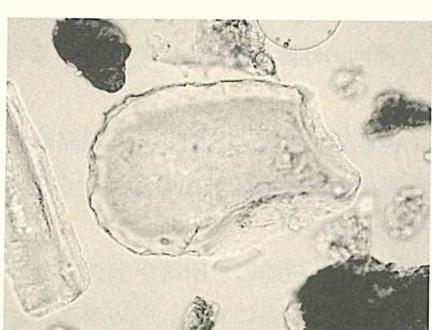
キビ族型（南壁 X II A層）



ススキ属型（西壁 X II B層）



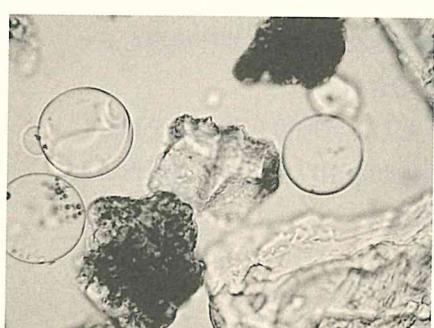
ヨシ属（西壁 IX層）



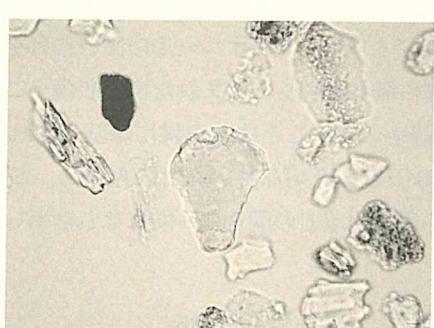
ヨシ属（南壁 X II A層）



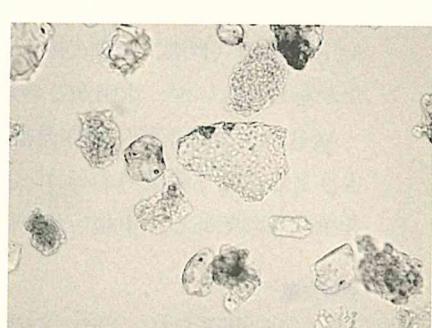
メダケ節型（南壁 X I層）



ネザサ節型（西壁 X I層）



チマキザサ節型（西壁 X I層）



ミヤコザサ節型（西壁 IX層）

第13図 昭和町遺跡2のプラント・オパール

— 50 μ m

VII. まとめ

はじめに 本調査により主に水田跡を検出することができた。ここでは水田跡を中心に、周辺遺跡の調査事例や科学分析の結果についても軽く触れ、まとめとしたい。

As-B 下水田 近辺の As-B 下水田が報告された遺跡としては、南に昭和町 I 遺跡、北西に飯塚大道東遺跡、北に飯塚西金井遺跡、北東には飯塚西金井 II 遺跡・飯塚東金井遺跡・飯塚東金井 II 遺跡が位置する。この中で大畦畔（坪境の畦畔）が確認されているのは、飯塚大道東遺跡・飯塚東金井遺跡・飯塚西金井 II 遺跡である。

これらの大畦畔の間隔から考慮すると、本遺跡で認められた畦畔は坪内を区画する小畦畔と捉えられる。1号畦畔は形状不明だが、2号畦畔のような湾曲した畦畔は昭和町 I 遺跡でも1条検出されている。また飯塚大道東遺跡・昭和町 I 遺跡・飯塚西金井 II 遺跡では、一町方格内の分割は半折型を用いたと推定されている。

しかし本遺跡では調査区が狭小なことや畦畔の遺存状況が悪いので分割方法は不明である。また2号畦畔や基本土層の断面観察で見られるようにIX層（水田耕作土）の上位に橙色の土があり、これは調査区中央付近にかけ疎らに認められた。この状況は、As-B 降下以前に水田が放棄されていた可能性を示すものであろうか。

As-B テフラ降下以降 本遺跡では As-B テフラ降下以降の溝・井戸・ピットが検出された。近辺の遺跡で As-B テフラ降下以降の主な遺構としては、昭和町 I 遺跡で As-B テフラより上層から掘り込まれた溝と近世陶器や瓦片を含む土坑が、飯塚大道東遺跡では中世以降および近世以降の溝が検出されている。

As-B 下水田より前の水田跡 近辺の遺跡では飯塚大道東遺跡で Hr-FA 二次堆積層下水田が検出された。水田面を覆っている土は粘質土と報告されており、本遺跡の状況に類似する。昭和町 I 遺跡では Hr-FA ないし Hr-FP 下水田の、飯塚西金井遺跡でも Hr-FA 下水田の存在する可能性が指摘されている。

本遺跡第2面の水田区画 11・13面の間は畦畔が検出されなかつたが、Hr-FA 二次堆積層下水田の畦畔と As-C 混土水田の畦畔は、同一線上に位置するように見受けられ、痕跡が連続する様子がうかがえる。逆に水田区画の 13・14面の間の畦畔と 3・5面の間の畦畔は位置が合わない。このように同じ場所で畦畔を作り続ける一方で、作りかえも見られた。

この他、第2面で検出された溝は As-C 混土水田より新しく、最終的に Hr-FA を含む土で埋没している。また Hr-FA 二次堆積層下水田の畦畔の遺存状況が悪い理由として、水田として利用されず放棄されたことや、後世の耕作に伴う攪拌によるものが想定できる。

おわりに 本遺跡を含む近辺の遺跡では、該期の水田跡が調査されている。そのような中で本遺跡では依存状況が悪く、その点は近辺の遺跡とは様相を異にする。周辺のプラント・オパール分析が行われた遺跡では、いずれも As-B 下あるいは Hr-FA 二次堆積層下水田で、イネのプラント・オパールが稻作跡の判断基準を上回る含有密度を示している。本遺跡では As-B 下水田で、やや低い値を示すが As-C 混土水田（X II 層）から As-B 下水田（IX 層）の間の層においてもプラント・オパールの高い含有を確認できた。途中に耕作放棄もあつたかもしれないが、水田がこの期間に概ね継続して営まれた様子を窺うことができる。

As-B テフラ降下後に耕作具痕が認められたことは水田耕作が試みられた、もしくは埋没した水田を復旧しようとしたとも考えられるが、As-B 下水田を切る井戸などの存在は、この土地が水田以外に利用されたことを示すものである。本報告が今後の周辺地域での調査の一助になれば幸いである。

参考文献

- 高市女 65 年史編纂委員会 1990『高市女 65 年史』高崎市立女子高等学校
岡田隆夫 1991「特論 上野国の条里制」『群馬県史 通史編 2』群馬県
高崎市教育委員会 1993「飯塚東金井遺跡」『高崎市内五遺跡埋蔵文化財発掘調査概要』高崎市文化財調査報告書第 124 集 高崎市教育委員会
高柳正春 1993『昭和町 I 遺跡』高崎市遺跡調査会報告書第 19 集 高崎市遺跡調査会・高崎市教育委員会
金子正人ほか 1996『飯塚大道東遺跡』高崎市遺跡調査会報告書第 54 集 高崎市遺跡調査会
高崎市史編さん委員会 2003『天龍護国寺』『新編 高崎市史 資料編 14 社寺』高崎市
荻野博巳 2007『飯塚西金井 II 遺跡』高崎市文化財調査報告書第 213 集 高崎市教育委員会

写真図版 1



調査区鳥瞰 (写真上側は観音山丘陵／北東から)



第1面全景 (東から)

写真図版 2



第2面全景 (ほとんどの畦畔を擬似畦畔として検出／西から)



1・2号溝全景 (北東から)



1号溝遺物出土状況 (東から)

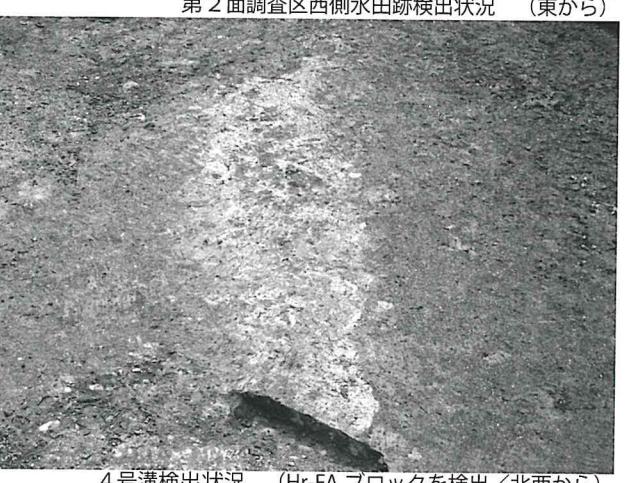


調査区西側耕作具痕検出状況 (南から)

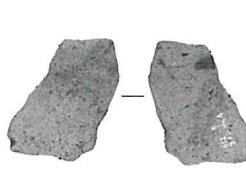


耕作具痕土層断面 (As-B 軽石と微量の暗褐色土含む／西から)

写真図版 3



第6図1



第10図1



第10図2



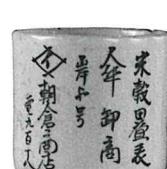
第10図3



遺構外1



遺構外2



遺構外3



遺構外4

発掘調査報告書抄録

ふりがな	しょうわまちいせき2
書名	昭和町遺跡2
副書名	体育館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
卷次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第342集
編著者名	向出博之・小宮山達雄・高崎市教育委員会文化財保護課 株式会社古環境研究所
編集機関	株式会社歴史の杜
所在地	〒377-0425 群馬県吾妻郡中之条町西中之条 723-9
発行年月日	平成27年2月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しょうわまち 昭和町 いせき 遺跡2	たかさきし 高崎市 しょうわまち 昭和町 88	102024	612	36° 20' 11"	139° 00' 14"	20141006 ～ 20141021	330 m ²	体育館 建設

所収 遺跡名	種別	主な 時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
昭和町遺跡2	集落 生産	As-B 軽 石 降下 より前 平安 時代 As-B 軽 石 降下 以降 近代 以降	水田・溝 水田 溝・井戸・ピット 建物跡	土師器 瓦 陶磁器・ガラス製品	第1面でAs-B下水田、第2面でHr-FA二次堆積層下、As-C混土の水田跡を確認した。またAs-B軽石降下以降の遺構が存在することが分かった。

高崎市文化財調査報告書 第342集 昭和町遺跡2 一 体育館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 — 平成27年2月20日印刷 平成27年2月27日発行 編集 株式会社歴史の杜 発行 高崎市教育委員会 株式会社歴史の杜 学校法人新島学園 印刷 上海印刷工業株式会社
